あなたの声を市政に

地区懇談会

問い合わせ　自治振興課☎(59)2142

自治会連合会は、住みやすい地域づくりを実現するため、まちづくりについて、市長を含め、市の幹部職員と直接話し合う「地区懇談会」を開催しています。昨年度に開催した8地区のうち、これまで6地区を紹介しましたが、今月号では、残りの2地区についての内容（一部抜粋）を紹介します。

小方地区（平成25年2月18日　小方公民館）

医療施設（内科）を地区内へ

問　昨年、小方1丁目の医院が廃業したことにより、黒川、小方、御園、三ツ石、港町、晴海地区の広い範囲にわたり、診療施設が1軒もない状態となりました。

市の「まちづくり」における医療施設の配置、充実をどのように考えているのか、特に小方地区についての考えをお聞きしたい。

答　医療施設は、市民の皆さんが安心して暮らしていくための非常に大切な要素であると考えています。また、できれば自分が住んでいる地域にかかりつけ医がいることが理想だと考えています。

しかしながら、地域のかかりつけ医だけでは、すべての病気に対応できるわけではありません。そのため、西医療センターやJA広島総合病院といった地域の拠点となる病院が、地域のかかりつけ医と連携して医療を行っていくことが最も効果的であると考えています。

また、このような充実した拠点病院があってこそ、地域のかかりつけ医が安心して患者を診ることができると考えています。

小方地区の医療の状況についてですが、現在の状況は決してよいとは考えていません。地域の皆さんの医療の確保は、努力していきたいと考えています。

小方公民館について

問　岩国大竹道路の建設に伴い、一部解体される体育館や隣接の公民館の存続について、具体的な説明がありません。自治会活動も含め、地域コミュニティにとって公民館の存在は大きいですが、公民館と体育館はどうするのでしょうか。また、平成25年4月には小方中学校が廃校になりますが、体育館を含めて、小方公民館を移設する検討はされていないのでしょうか。

答　社会教育施設は市民の社会教育・生涯学習の場として活用されているだけでなく、大規模な災害時の避難場所にも想定されるなど、複数の機能を備えた大切な施設ですが、市内には小方公民館の他にも、耐震性や老朽化などの理由から、建て替えや改修が必要な社会教育施設が複数存在します。

そのため、昨年整理した「社会教育施設等の再編基本方針（総論）」では、幅広い世代の住民が集まることができ、地域活動の拠点として機能し得る社会教育施設は、地域の人口動態、集会所や防災施設などの他の施設の設置状況など、地域の状況を分析したうえで、施設の方向性を決めることとしています。

小方公民館の一部は、岩国大竹道路の用地となる予定ですが、国土交通省から詳細設計が示されていないため、現時点では明確にお答えできる状況ではありません。しかし、小方中学校の体育館は耐震性に問題がないことから、地域に残る施設に位置付けられる可能性が高いと考えています。

今後「社会教育施設等の再編基本方針（各論）」を策定するにあたっては、ご提案いただいた、現在の公民館を、体育館も含めて移設することも一案だと考えています。

現地が売却を前提とした小方中学校跡地であり、一般会計で購入しなければならないことなども十分に考慮したいと思います。

小方小・中学校跡地について

問　前回の地区懇談会では、「小方駅の計画もJR西日本と協議できる段階ではない」とのことでした。

その後、市議会に小方3自治会から小学校跡地の公園化の要望書が出されましたが、小方駅構想と公園の要望は、どのように整理するのでしょうか。

答　小方小・中学校の跡地は、売却を基本としています。国から、岩国大竹道路詳細設計が示された段階で、例えばJR小方新駅の設計や小方公民館の移転など、必要な公共事業がある場合は市が一般会計予算で購入し、それ以外の土地を民間へ売却することになると考えています。

したがって、将来の土地活用、そして魅力的なまちづくりにとって万が一にも不利な条件とならないように、早い段階から方向性を決めてしまうことで、選択の幅を狭めないことが重要だと考えています。

まちづくりについての意見交換の場で交わされた主な内容

小方地区のまちづくりについて

○長い歴史があるので、古い町並みを再現してはどうか。

○亀居公園に人が集まるようにしてはどうか。

○亀居公園に団体用のバスが停車できるようにしてはどうか。

新町地区（平成25年2月28日　新町三丁目集会所）

都市再開発事業について

問　新町3丁目地区内の空白地帯である田んぼ・畑について、行政指導による都市再開発事業として、事業の推進を要望します。

答　約25年前に市が都市計画道路と併せて土地区画整理事業による開発を地元の方々にご提案いたしましたが、諸般の事情により断念した経緯があります。

適切な市街化の形成のための基盤整備の必要性・重要性は認識しています。しかし、地元における機運が高まることが必須条件になると考えています。

なお、現時点では、民間主導による「まちづくり」などを行政が側面的に支援することが適切であると考えています。

治水問題について

問　1日あたりの降水量が100㎜以上の日が数日続くと、大竹2号雨水幹線（新町）周辺地区が床下浸水します。

もともと新町地区の低地に対し、歩道床版工事により水路の断面積が縮小されたことが原因の1つですが、水路上部の開放部を塞ぎ、通路化したため、大竹市民の利便性もよくなっています。

すでに、土木課・上下水道局と自治会で協議しつつ、改善に向けた作業は始めていますが、過度の改善は期待できないとも説明を受けています。今後も床下浸水が続くのであれば、抜本的な改修をお願いします。

答　大竹2号雨水幹線の排水能力の低下は、改善策の検討を行っています。

その中では、床版工事により縮小した断面の区間を改良しても、現状の低地における浸水水深を低減させることは大きく期待できないことがわかりましたので、前後の水路を含めた雨水排水計画全体での解決案を探る必要性を認識しています。

これまでJR手前の流下能力改善や、JRの軌道敷きを含めた下流水路の浚渫（しゅんせつ）などを行い、現状の水路における流下能力の改善を行っています。

引き続き、現状でのできる限りの能力確保は継続しながら、市内全体の雨水対策の中で検討を進め、皆さんの不安箇所を改善したいと考えています。

まちづくりについての意見交換の場で交わされた主な内容

新町地区のまちづくりについて

○新町地区はとても便利であるが、消防車や救急車が通れないような狭い道路が多いので、道路を広げてはどうか。

○維持管理が大変だと思うが、市民が持っている作品などを展示するための美術館を整備してはどうか。

○各家で、大竹市の伝統や文化などがわかるようなものを展示する「まちかど博物館」をやってはどうか。